



日野市立日野第四小学校

校長 三浦 寛朗

令和6年8・9月号

学校 Web ページ

<https://www.hino-tyky.ed.jp/e-hino4/>



学校標語 「夢中になれる 夢中にさせる 日野四小」

## 自信をもつことの大切さ

校長 三浦 寛朗

残暑が厳しい中、四小の田んぼでは稲がすくすくと育っています。稲穂が実り始めました。大空に向けて元気に育つ稲の傍らには、大切な稲穂を守るためにかかしが見守ってくれています。稲がこれからどのように大きく育っていくのか、そして、秋にはどれくらい収穫できるのかとても楽しみです。お世話をしてくださっている環境ボランティアの皆さん、本当にありがとうございます。

また、夏休み期間中は大きな事故やけがの報告もなく、おかげさまで無事に2学期のスタートを切ることができました。保護者の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力に心よりお礼申し上げます。

さて、今年の夏はパリ2024オリンピックが開催されました。史上初のスタジアム以外の会場で行われたセーヌ川での開会式から始まり、たくさんのお名シーンと感動のドラマが生まれたオリンピックに魅了され、感動した方も多かったのではないのでしょうか。そういう私もテレビ中継に夢中になり、新聞やネットのオリンピック関係の記事を読み漁った一人です。

様々な名場面があった中で私が好きな場面は、フェンシング・男子フルーレ団体の決勝戦です。生中継を見ていたわけではなく、スポーツニュースで日本チームが金メダルを取ったことを知ったのですが、優勝が決まった瞬間のガッツポーズ、表彰台での敷根崇裕選手、松山恭助選手、飯村一輝選手、永野雄大選手の4人の晴れ晴れとした爽やかな笑顔が印象的でした。

これまで、特にフェンシングに興味があったわけでもなく、ルール等も詳しく知っているわけではなかったのですが、日本チームのこれまでの軌跡やルールについてネットで調べてみると、4人の選手のインタビューや、エルワン・ルペシューコーチのインタビューが掲載されている記事がありました。その記事によると、ルペシューコーチは「選手たちに自信を植え付けること」を徹底して取り組んできたそうです。そのために特に意識したのが「心」の部分で、難しいこともポジティブな言葉で簡単に思わせるようにするなど、工夫した声かけで自信をもたせたと書かれています。また、対戦相手がどこであろうと「自信」をもって挑むように語り続けてきたそうです。キャプテンの松山恭助選手もルペシューコーチについて、「自信をもたせてくれたことが一番」と話しています。選手たちは、コーチがもたせてくれた「自信」を胸に試合に臨み、自分の力を存分に発揮したのでしょう。その結果が金メダルへとつながったのだと思います。

この記事を読んで、「自信をもつこと」「自信をもたせること」のよさ、素晴らしさを改めて感じました。自信をもっている子、自己肯定感が高い子には次のような特徴があると言われています。

- ・ 他人を尊重し、コミュニケーション能力が高い
- ・ 自分の感情や衝動をコントロールできる
- ・ ポジティブで、プラス思考
- ・ 物事に意欲的かつ集中して取り組むことができる
- ・ 失敗を怖れず、チャレンジ精神がある
- ・ 人と自分を比較することが少なく、幸福度が高い

では、子供たちに自信をもたせる、自己肯定感を高めるにはどうすればいいのでしょうか。日野四小では、次のようなことを意識して、教育活動を進めています。

- ・ 子供が頑張ったところを褒める
- ・ 子供が成長したところを認める
- ・ 子供が失敗しても前向きな言葉をかける
- ・ 子供に意見を求める
- ・ 子供の話を聞く

2学期は、1年間の中で一番長い学期です。社会科見学など校外に出て学ぶ機会もあります。11月には、マイプランスクールで学んだことを子供たち一人一人が発表するマイプラフェスタも行われます。今学期も、様々な教育活動を通して、子供たちに自信を育んでいきます。どうぞよろしく願いいたします。